

行政評価シート

事務事業名	主要幹線道路整備事業(社会資本整備総合交付金事業及び合併特例債)		事業開始年度	
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係
				工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅱ. 幹線・生活道路の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	主要幹線道路整備事業については、主に一級及び二級市道であり地域間を結ぶ幹線道路であると共に、通学路、観光道路、産業道路、他市町村へのアクセス道路等としての利用も多く、近年ほとんどの路線において大型車の交通量が増加している。その中において、車線数の確保、狭隘危険箇所の解消、歩道の設置等の改良工事を行い、歩行者の安全確保、交通の円滑化、利便性の向上を図ることを目的に年次計画により整備を進める。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	社会資本整備総合交付金を活用し、道路整備を実施 平成30年度 整備路線7路線 整備延長L=1,399m 用地・物件補償・業務委託 令和元年度 整備路線7路線 整備延長L=1,173m 用地・物件補償・業務委託
------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	交流ネットワークの形成及び通学路の安全対策	指標の単位	路線数
指標の説明	社会資本整備計画の目標に基づき整備する路線数		
	H28	H29	H30
目標値	8	8	7
実績(見込)値	8	7	7
達成度(%)	100%	88%	100%
	R1	R2(見込)	
目標値	8	7	
実績(見込)値	7	6	
達成度(%)	88%	86%	

指標名②	交流ネットワークの形成及び通学路の安全対策	指標の単位	m
指標の説明	社会資本整備計画の目標に基づき整備する路線の延長		
	H28	H29	H30
目標値	1,600	1,730	1,800
実績(見込)値	1,042	710	1,399
達成度(%)	65%	41%	78%

【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった

【説明】	所管課評価
国の交付金内示額により、事業計画に遅れが生じているが、完了に向けて進捗が図られてきている。令和2年度までには、3路線が完了。 全体計画に対する進捗率(改良完成R1末)4,951m/7,609m=65.1%	A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	社会資本整備計画に基づき、通学路、観光道路、産業道路、他市町村へのアクセス道路の整備完了に向け、引き続き年次計画により進める。国の交付金確保については、さらなる努力を図る。

行政評価シート

事務事業名	幹線道路整備事業(合併特例債対象路線)		事業開始年度	
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係
				工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅱ. 幹線・生活道路の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	幹線道路整備事業については、主に地域間を結ぶ一級市道等であり、地域間のアクセス、通学路、観光道路等の路線であり、近年大型交通量も増加している。しかし、歩道のない区間や屈曲で狭隘な箇所等もあり、それら危険箇所を解消し歩行者の安全確保、交通の円滑化、利便性の向上を図ることを目的に年次計画により整備を進める。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	合併特例債を活用し、道路整備を実施 平成30年度 整備路線3路線 整備延長L=445m 物件補償・業務委託 令和元年度 整備路線3路線 整備延長L=322m 物件補償
------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	地域間、観光、行政施設、産業、交流道路ネットワークの整備			指標の単位	路線数
指標の説明	新市建設計画に基づき整備する路線数				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	6	5	3	2	2
実績(見込)値	6	5	3	3	3
達成度(%)	100%	100%	100%	150%	150%

指標名②	地域間、観光、行政施設、産業、交流道路ネットワークの整備			指標の単位	m
指標の説明	新市建設計画に基づき整備する路線数整備する路線の延長				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	764	768	526	268	133
実績(見込)値	812	449	445	322	90
達成度(%)	106%	58%	85%	120%	68%

【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった

【説明】 年次計画に基づき、整備計画路線の早期完成に向けて事業を進めている。令和元年度までで計画7路線中5路線が完了し、令和元年度より、2路線を新たに計画に組み入れ整備を進めている。 全体計画に対する進捗率(改良完成令和元末)1,760m/2,210m=79.6%	所管課評価 A
--	----------------

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	引き続き年次計画により整備を図る。

行政評価シート

事務事業名	生活幹線道路整備事業(過疎対策債対象路線)		事業開始年度	
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係
				工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅱ. 幹線・生活道路の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	生活幹線道路については、地域間を結ぶ幹線道路であると共に居住者の生活道路として位置づけられている。また、通学路はもとより、季節によっては多くの観光客が訪れる観光道路、農産物の輸送路等として利用されており、近年車両通行量は増加している。しかしほとんどの路線は、屈曲で狭隘な箇所が多いことから、通行に支障をきたしている。それらを解消し安全性の確保と交通の円滑化、利便性の向上を図ることを目的に、年次計画により整備を進める。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	過疎債を活用し、道路整備を実施 平成30年度 整備路線3路線 整備延長L=608m 物件補償・業務委託 令和元年度 整備路線4路線 整備延長L=430m 用地補償・業務委託
------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進		指標の単位	路線数	
指標の説明	二本松市過疎地域自立促進計画に基づき整備する路線数				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	1	3	3	4	2
実績(見込)値	1	3	3	4	2
達成度(%)	100%	100%	100%	100%	100%
指標名②	交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進		指標の単位	m	
指標の説明	二本松市過疎地域自立促進計画に基づき整備する路線の延長				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	130	530	748	610	310
実績(見込)値	130	490	608	430	100
達成度(%)	100%	92%	81%	70%	32%
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	年次計画に基づき、対策路線の早期完成に向けて事業を進めている。令和元年度末までで、計画9路線中3路線が整備完了。				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	二本松市過疎地域自立促進計画に基づき、屈曲で狭隘な箇所を解消し安全性の確保と交通の円滑化、利便性の向上を図るため、引き続き年次計画により整備促進を図る。

行政評価シート

事務事業名	一般市道整備事業(単独事業)			事業開始年度	
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係	工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくれます
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅱ. 幹線・生活道路の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	市道については、道路整備計画を基本に地域要望等を勘案し、年次計画により整備を進める。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	平成30年度 道路改良工事、舗装新設工事、として26路線整備。 令和元年度 道路改良工事、舗装新設工事、として18路線整備。
------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	狭隘、屈曲箇所解消、居住環境の整備			指標の単位	路線数
指標の説明	整備する路線数				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	43	32	28	25	25
実績(見込)値	40	30	26	18	18
達成度(%)	93%	94%	93%	72%	72%

指標名②	生活環インフラ整備			指標の単位	世帯
指標の説明	舗装整備を行い、未舗装が解消する世帯数				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	31	18	16	15	15
実績(見込)値	31	18	16	10	10
達成度(%)	100%	100%	100%	67%	67%

【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった

【説明】	所管課評価
狭隘、屈曲箇所の解消については、計画に基づき整備促進が図られている。舗装新設においては、家屋に通じる未舗装路線の解消が図られてきている。	B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	総合計画に基づき、年次計画により整備を進める。

行政評価シート

事務事業名	減容化施設整備関連事業			事業開始年度	平成29年度
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係	工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくれます
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅱ. 幹線・生活道路の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	減容化施設に伴う大型車両等の通行増に伴う安全対策として、周辺道路の狭隘区間の解消、安全性の確保と円滑化、利便性の向上を図る。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	年次計画に基づき、対策路線の道路整備を実施。
------	------------------------

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	安全性の確保と通行の円滑化			指標の単位	路線数
指標の説明	計画に基づき整備する路線数				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値		1	1	2	2
実績(見込)値		1	1	2	2
達成度(%)		100%	100%	100%	100%

指標名②	安全性の確保と通行の円滑化			指標の単位	m
指標の説明	計画に基づき整備する路線の延長				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値		0	435	500	400
実績(見込)値			435	500	820
達成度(%)			100%	100%	205%

【目標に対する進捗状況】	目標達成
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった

【説明】	所管課評価
計画路線について、令和2年度において、事業完了の見込みとなっている。	A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	完了
【説明】	計画事業について完了。

行政評価シート

事務事業名	道路環境整備事業			事業開始年度	
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係	工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくれます
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅲ. 道路環境の整備と長寿命化の促進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	雨水排水路の整備、舗装路面の補修を行い、安全かつ円滑な交通を確保するとともに、道路環境の整備を行う。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	側溝の整備を図るとともに、舗装路面の補修を行い、道路環境の整備を実施した。 平成30年度 側溝整備 11路線 L=760m、舗装補修 10路線 L=1,788m 令和元年度 側溝整備 9路線 L=478m、舗装補修 7路線 L= 683m
------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	道路環境整備			指標の単位	m
指標の説明	施工予定延長に対する進捗状況				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	890	1,333	1,510	1,425	1,484
実績(見込)値	1,093	1,277	2,548	1,161	950
達成度(%)	123%	96%	169%	81%	64%
指標名②				指標の単位	
指標の説明					
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値					
実績(見込)値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	計画に基づき、側溝整備、舗装補修を行い、安全な交通確保及び道路環境の整備が図られている。				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	総合計画に基づき、年次計画により整備を進める。

行政評価シート

事務事業名	道路照明整備事業			事業開始年度	21
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係	維持係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅲ. 道路環境の整備と長寿命化の促進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	電気料金のコスト削減及び地球温暖化防止対策を目的としLED灯にて整備を行い、歩行者の夜間の防犯及び交通の安全を確保する。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	令和元年度までに歩行者の夜間の防犯及び交通の安全のため要望のあった箇所について、優先度を考慮し街路灯の新設を行った。 また、平成30年度繰越予算にて令和元年度までに既存街路灯(蛍光灯)について、リース事業によりLED化を行った。
------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	道路照明新設			指標の単位	基
指標の説明	施工予定数に対するの進捗状況				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	70	70	0	333	25
実績(見込)値	72	77	0	333	25
達成度(%)	102	110	0	100	100

指標名②	道路照明更新			指標の単位	基
指標の説明	施工予定数に対するの進捗状況				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	0	0	0	3515	118
実績(見込)値	0	0	0	3515	118
達成度(%)	0	0	0	100	100

【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった

【説明】 新設事業については、30年度から実施したLED化リース事業により30年度要望の一部を除き、要望未設置箇所の解消を図ることが出来た。 更新事業は、LED化リース事業により蛍光灯については、全てLED灯に更新することが出来た。	所管課評価 A
--	----------------

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
----------	--------

【説明】

新設事業については、令和2年度から既存並びに新規要望について必要性及び優先順位を考慮するとともに、コスト削減を図りながら事業を進める。
更新事業(水銀灯等)については、整備項目が多くなりコスト高となる施設が多いことから、コスト削減を図りながら早期完了を念頭に事業を進める。

行政評価シート

事務事業名	側溝改修事業			事業開始年度	25
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係	工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅲ. 道路環境の整備と長寿命化の促進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	老朽化が進み安全に支障をきたしている道路側溝の改修・整備を行い、安全確保並びに生活環境の向上を図る。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	側溝改修(～H29 社総金による整備) 令和元年度より公共施設等適正管理推進事業債公的債を活用 令和元年度 側溝改修 3路線 L=180m
------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	側溝改修			指標の単位	m
指標の説明	施工予定延長に対する進捗状況				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	149	137	0	294	200
実績(見込)値	149	137	0	180	435
達成度(%)	100%	100%		61%	218%
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値					
実績(見込)値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	目標達成				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	点検結果に基づき計画された、現場打ちや老朽化した側溝の改修を進め、危険箇所、老朽施設の解消を図った。				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	引き続き、個別施設計画に基づき、改修事業を進める。

行政評価シート

事務事業名	道路補修事業			事業開始年度	23
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係	工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくれます
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅲ. 道路環境の整備と長寿命化の促進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	昭和60年代の建設以降、部分的な補修を実施してきたが、老朽化が進んできたため、舗装路面の補修を行うと共に、路上再生路盤工により質的改良を行い、安定した道路を構築し、本路線を走行する車両の安全かつ円滑な交通の確保を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	道路補修 平成30年度 7路線 補修延長L=2,129m 令和 元年度 5路線 補修延長L= 706m
------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	道路補修			指標の単位	m
指標の説明	施工予定延長に対する進捗状況				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	1,320	1,750	1,790	2,040	2,100
実績(見込)値	1,554	2,008	2,129	706	440
達成度(%)	118%	115%	119%	35%	21%
指標名②				指標の単位	
指標の説明					
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値					
実績(見込)値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	社会資本整備総合交付金を活用し、計画路線の補修を進め、走行する車両の安全かつ円滑な交通の確保を行った。 事業を進めるうえで、交付金の予算確保が課題となっている。				所管課評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	国の交付金確保に努め、引き続き計画路線の補修を進める。

行政評価シート

事務事業名	道路橋長寿命化修繕事業			事業開始年度	21
担当部	建設部	担当課	土木課	担当係	工事係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくれます
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	Ⅲ. 道路環境の整備と長寿命化の促進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	道路橋の従来の対症療法的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び長寿命化修繕計画に基づき橋梁補修に政策転換を行い、建設年から架け替え年までの修繕・架け替えにかかる単年度当たりのコスト縮減を図っている。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	橋梁定期点検を実施。補修が必要な橋梁の補修設計を行い、補修工事を実施。 平成30年度 補修設計5橋、補修工事1橋 令和元年度 補修設計1橋、補修工事1橋、橋梁定期点検59橋
------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	道路橋長寿命化修繕			指標の単位	橋
指標の説明	施工予定橋梁修繕箇所に対しての進捗状況				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	3	1	1	2	3
実績(見込)値	4	3	1	1	1
達成度(%)	133%	300%	100%	50%	33%
指標名②				指標の単位	
指標の説明					
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値					
実績(見込)値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	橋梁定期点検について、計画的に実施。補修が必要な橋梁及び跨線橋の耐震補強について、計画に基づき進めているが、耐震補強については、JRの受託調整により、実施時期に遅れが生じている。				所管課評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	現状のまま継続
【説明】	定期点検結果により、計画的に補修工事及び予防的な修繕も含め長寿命化を図っていく。 (新幹線を跨っている跨線橋の耐震補強は令和2年度まで。JRを跨っている跨線橋の耐震補強は令和5年度までに着手する)

行政評価シート

事務事業名	生活バス路線維持対策事業(公共交通確保対策事業)		事業開始年度	平成22年	
担当部	総務部	担当課	秘書政策課	担当係	総合政策係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	IV. 公共交通の充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	市民の移動を支える持続可能な交通体系を確立する
-----------------	-------------------------

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	① コミバスの運行(H22.4～安達、東和)(H23.2～岩代) ② 公共交通の見直し(H26.4～直通便運行、H26.10～デマンドタクシー運行) ③ 生活路線バス維持:生活路線バス(福島交通)の運行補助 ④ 廃止代替路線維持:本宮・岳線の運行補助 ⑤ 協議会運営:地域公共交通活性化協議会運営補助金、高速BS協負担金 ⑥ 高速BS管理、鉄道との連携
------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	バス路線の維持率			指標の単位	パーセント
指標の説明	民間事業者が運行する生活路線バスの運行経路(系統)が存続している数の割合				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	13	13	13	13	12
実績(見込)値	13	13	13	13	12
達成度(%)	100%	100%	100%	100%	100%
指標名②	コミュニティバス利用者数(一般)			指標の単位	人
指標の説明	小中学生以外の一般市民がコミュニティバスを利用した人数				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
実績(見込)値	12,546	11,747	9,807	10,853	8,000
達成度(%)	83.64%	78.31%	65.38%	78.31%	78.31%
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果が得られなかった				
【説明】	高齢者や子供などの交通弱者が安心して日常生活を過ごすために生活交通の確保は重要度が高い。しかしながら、利用者の減少により行政での財政支出が増加してきている。				所管課評価
					C

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	
【説明】	公共交通を持続可能なものとしていくためには、地域や市民、行政が協働して支えていかなければならない。そのためにも、多くの市民に利用していただけるように、利用やすく、使い勝手の良いものにするために、常に改善を行っていく必要がある。 また、地域の商業振興や医療機関の維持確保、まちづくりの面からみた、公共交通の果たす役割も大きいことから、引き続き実施する。

行政評価シート

事務事業名	タクシー料金助成事業			事業開始年度	未開始
担当部	総務部	担当課	秘書政策課	担当係	総合政策係

1. 事業概要

基本目標 (方策の柱)	1. 若者の未来を創るまち
政策 (方策)	(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくれます
施策 (手法)	② 道路ネットワークの整備
取組事項	IV. 公共交通の充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	交通弱者(高齢者・運転免許証自主返納者)の日常生活を支える移動支援を目的として、既存の公共交通を補完する交通手段としてタクシーの活用を図るため、タクシー運賃の一部を助成する。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容	75歳以上の高齢者又は運転免許証を自主返納したものに対し、タクシー運賃の一部を助成する。
------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	タクシー運賃助成利用登録者			指標の単位	人
指標の説明	タクシー運賃助成を受けるために利用登録した人数の割合				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値					
実績(見込)値					
達成度(%)					
指標名②	タクシー運賃助成金額			指標の単位	円
指標の説明	タクシー運賃助成をした合計金額				
	H28	H29	H30	R1	R2(見込)
目標値					
実績(見込)値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	評価結果なし				
【費用対効果】					
【説明】	本格実施に向けて実証実験中であり、目標設定も実験結果を考慮し、設定する。				所管課評価
					—

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	
【説明】	